

ヒト由来トランスグルタミナーゼ7、組換え型

Cat. No. NATE-1737

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 トランスグルタミナーゼ7は、プラスミド pCRII-hTGz cl.14 上の TGM7 遺伝子に基づいており（ダニエル・エシュリマンによって単離された）、位置1169にCがGに入られて修正されています。N末端にはヘキサヒスチジンタグが融合されています。

用途 トランスグルタミナーゼ7は、タンパク質やペプチド中のグルタミン残基から一次アミンへのアシル転移反応を触媒します。例えば、ペプチド結合グルタミン残基のアシル基をペプチド結合リジン残基の一次アミノ基に転送することによって、タンパク質間のε-(γ-グルタミル)リジン結合の形成を行います。トランスグルタミナーゼ7は、免疫沈降にも使用されることがあります。

別名 トランスグルタミナーゼ; EC 2.3.2.13; 80146-85-6; トランスグルタミナーゼ; ファクター XIIIa; フィブリノリガーゼ; フィブリン安定化因子; グルタミニルペプチド γ-グルタミル転移酵素; ポリアミン トランスグルタミナーゼ; 組織トランスグルタミナーゼ; R-グルタミニルペプチド:アミン γ-グルタミル転移酵素; タンパク質-グルタミン γ-グルタミル転移酵素; TG1

製品情報

種	人間
由来	大腸菌
外形	白い凍結乾燥固体。
形態	トランスグルタミナーゼは、50 mM トリス-HCl pH 8から凍結乾燥されています。
EC番号	EC 2.3.2.13
CAS登録番号	80146-85-6
分子量	81 kDa
純度	> 90 % (SDS-PAGEによる視覚的)
活性	> 1000 U/mg [活性は、Lorand et al. による N,N-ジメチル化カゼインへのトランスグルタミナーゼ触媒によるモノダンシルカダベリンの取り込み後の蛍光強度速度を測定することによって決定されます。Anal. Biochem. 44 (221-231)。]
活性化因子	10 mMのCa ²⁺ を加えてトランスグルタミナーゼを活性化します。
単位定義	1 Uは、1 a.u./minの蛍光強度の増加として定義されます（Cary eclipse 蛍光分光光度計、Varianで測定; λ _{ex} = 332 nm, λ _{em} = 500 nm; バンドフィルター = 5 nm; 検出器強度 = 600 V; 温度 = 37°C, アッセイ体積 = 1 ml）。

使用法とパッケージング

包装	250 μg
再構成	分析証明書に記載された分注の水の量を凍結乾燥粉末のバイアルに加えます。固体が溶解するまでバイアルを優しく回転させます。再構成後、溶液は短期保存のために氷の上で冷却する必要があります。

保存方法

-20℃以下で保管してください。作業用アリコットは-20℃以下で保管してください。繰り返しの凍結と解凍を避けてください。 常温での配送が可能です。